

新しい道標を除幕した参加者（霜降山系で）



霜降山と男山分岐点に道標

霜降会 変則五差路を明解に

毎月第1日曜日にふるさとの山・霜降山系をフィールドに里山トレッキングを行っている霜降会（矢野洋司会長）は4日、霜降山と男山の分岐点に金属製の道標を設置した。

設置した道標は高さ約1・8メートル。場所は管理道の途中で、男山山頂展望台や霜降山前城、埤池へ向かう道が分岐する地点。以前から道標は設置されていたが、変則五差路となっており、登山ルートが分かりにくいという市民の声が寄せられていた。

この日の例会には61人が参加。厚東の末信橋をスタート。中城から本城、前城を経て、設置場所の分岐点へ。市民の代表が

道標の行き先プレートの除幕をして設置を祝った。

矢野会長は「金属製の道標は持世寺コースと白岩公園コースの登山口に次いで3カ所目。会員会費のほか、会の運営に賛同してくれた賛助会員からの浄財を有効活用した。霜降山系には多彩なトレッキングコースが設定されており、多くの市民に気軽に楽しんでもらうため、今後も道標設置を続けたい」と話した。

同会は市民の健康増進のため、毎月第1日曜日のため、毎月第1日曜日の午前9時から実施。持世寺、末信橋、中山観音、小羽山、真締川ダムの5カ所を順番に発着点として半日山行を行っている。

（坂本）